

点訳フォーラムQ & A

2024 年 4 月～ 2025 年 3 月版

第 5 章 書き方の形式

その 1 本文の書き方

1. p148 1. 行替え・行移し 【処理 3】

(原文)

中身はこんな項目だ。権利について（人と人は対等、暴力で支配しない・されない）▽パートナーシップ（愛って？依存との違い）▽性教育（性的同意、避妊、生理、性病）▽心の取り扱い方（ブラックハート、レッドハート）▽お金の話し（給料、税、社会保険料）▽暮らしの話し（ライフライン契約、家事）▽行政手続き（住民票、戸籍、課税証明、書類の書き方）など多岐にわたっている。

この▽マークは「読点」を使おうと思いますが、いかがでしょうか。

【A】

一文のなかの区切りですので、読点を使うことになると思います。

なお、他にもこのような箇所があって、分かりにくいと思われることが多い原本の場合は、点訳書凡例で《原文で三角印などで区切られている項目には、a. b. c. と番号を付けました》のように断って、読点を付けた上に項目の前に、a. b. c. などと付けてもよいと思います。墨字では▽を使用していて区切りが分かりやすくしてありますので、点字でもこのような工夫をしてもよいと思います。または、今回ご質問に適しているかどうか分かりませんが、▽のところで改行する方法もあると思います。

2. p149 4. 挿入文の書き方

翻訳本の点訳で行あけに関してお聞きします。

原文で、本文と字体を変えてママとの思い出などが書かれているところがあります。他の所は必ず 1 行あいているのですが、ここだけはあいていません。

点訳したとき迷った末、1 行あけたのですが、校正では、あけないで原文のままとありました。「てびき」にも原文通りが基本とあります。ただ、十分に留意して判断して訂正するかを決めるともあります。次の文が続いていても判断できるかだとは、と思いますが、よくわからなくなっていました。

【A】

視覚的に字体を変えているので、原文では行あけをしていないのだと思います。

「てびき」 p 149 「4. 挿入文の書き方」の(2)にありますように、活字の大きさや

字体の変更だけで文が挿入されている場合は、点字では前後1行あけたりできますので、字体が変更されている部分は前後を1行あけてよいと思います。

3. p152 5. 箇条書き

「1 善人は、フードを粗末に扱う」という文の後ろに同じ意味の「1 Good People Eat with Gusto」と英文があります。

日本語は「数1■■■ゼンニンワ～」と番号の後は二マスあけとしますが、英文も「外引数1■■■ Good～」と二マスあけをするのでしょうか。一マスあけでいいのでしょうか。

【A】

英語の点字では文中に二マスあけはありませんし、数字の後一マスあけでも次に大文字が来れば分かると思いますが、このように箇条書きや番号を表す場合、日本語の点字でもピリオドを付けるかカッコで囲むことをお勧めします。裸の数字は大きな見出し項目には使用しますが、後ろ二マスあけとセットになりますので、箇条書きなどの番号を示すには適していません。原文にピリオドがなくても点字ではピリオドを付けるようにするのがよいと思います。

4. p152 6. ニマスあけ (2)

サイト内検索も充実しており、たとえば「赤羽 居酒屋」と打てば目当ての記事にヒットする。

という文章で「赤羽 居酒屋」のように検索するための言葉が羅列されている場合、言葉と言語の間のマスあけはどうなりますか？「赤羽」「居酒屋」は別の要素として「てびき」二マスあけの(2)①になりますか。検索のための言葉という要素で一マスあけになりますか。

【A】

この場合、墨字で検索する場合も別の要素としてスペースを入れますという意味合いも含め、「アカバネ■■■イザカヤ」と二マスあけした方がよいと思います。

その2 見出しの書き方

1. p154 1. 見出しの書き出し位置

5人の作者の作品が収められている本の見出しの書き方についての質問です。各作品は見出しのない文章です。

①7マス目に作品名で改行し、次行右詰で作者名を書く

②7マス目作品名で2マスあけて作者名を書く

①と②どちらが良いでしょうか。あるいは別の書き方がありますか。

作品の途中で分冊する時

2巻以降の見出しの書き方についての質問です。

見出し点挿つづき点挿と従来書いていますが、今回の場合作者名があるのでそれを明記するか否か。

【A】

一般的には、①の7マス目からタイトルを書き、次行行末に作者名を書く方法になります。その場合、点訳書の目次は、タイトル名だけになりますが、著者名は奥付や著者紹介で確認できるので、差し支えないと思います。

そして、2巻目以降の((ツヅキ))の書き方も、タイトルの後ろに続けて書く事になります。

②の方法で、7マス目から作品名を書き、二マスあけて著者名を書くと、点訳書の目次も同じ書き方になりますが、見出しのレイアウトとしてはあまりお勧めできる形ではないと思います。2巻目以降の((ツヅキ))も著者名の後ろに続けることになります。

2. p154 1. 見出しの書き出し位置

原本に年表があり、その後に、

執筆者・市史編纂関係者

協力者・協力機関

という見出しがあります。本の構成からどちらも9マス目からの見出しになります。一番大きな9マス目からの見出しの場合、必ず改ページしなくてはいけないのでしょうか。内容的に考えると1行あけでよいと思うのですが、そのようなことはできないのでしょうか。

【A】

9マス目からの見出しは必ずページ替えと決まっているわけではありませんが、1タイトルの中では、9マス目からの見出しをページ替えにするとしたらそれは統一することになります。

年表の後に、年表の執筆者でなく本全体の執筆者・関係者名が掲載されているとすると著者紹介と同じように独立の内容になると思います。ただ、そこで改ページ、協力者・協力機関でまた改ページと言うのは違和感があります。

協力者・協力機関は執筆者に付随する情報として扱うのがよいと思いますが、年表の後改ページしても、この二つの見出しを7マス目書き出しで書いて、間を1行あけにする方法もあるかもしれません。

3. p154 1. 見出しの書き出し位置

見出しの書き方について質問します。

『那珂通世と夏目漱石』を点訳しています。

見出しは4種類あります。

- ① I 見出し文
- ② 見出し文
- ③ 1、見出し文
- ④ 1、1 見出し文

点訳は

- ① 9マス目 I ■■見出し文
- ② 7マス目 見出し文
- ③ 5マス目 1。見出し文
- ④ 3マス目 1。＝1小見出し（＝はハイフン） 改行して3マス目から文章

原本に従い①の見出しで改ページとします。

原本は①②③の見出しの前は行あけしてあるので、点訳も行あけしたいと思います。

④のような見出しの書き方はいいのでしょうか。

【A】

④を小見出し符を用いた見出しにしないで

①9マス目、②9マス目、③7マス目、④5マス目にするか

①9マス目、②7マス目、③7マス目、④5マス目にしてはどうでしょうか。

①の見出しの変わり目で改ページになるので、②は9マス目にして、見出しの変わり目に1行あけにすれば、見出しの大きさで迷うことはないと思います。

また、①の見出しがローマ数字ですので、③の見出しを裸数字のあと二マスあけにして、④の見出しを、数1＝数1. ■ にすれば、形はすっきりすると思います。

4. p155 2. 見出しの段階を示す文字や数字

「～三人の前で止まる(①)。「中略」歌舞伎座の栈敷席が①と同じように写される(③)。」とこのようにカッコの中の丸付き数字とカッコなしの丸付き数字が出てきます。カッコの中の①に第2カッコを用いましたが、次にカッコなしの①だけで出てくる場合、第1カッコか第2カッコかどちらがいいのでしょうか。あるいは他の書き方がありますか。

【A】

ご質問の場合、①、②をどのように点訳するかをまず決めます。

①を、第1カッコで囲んで書くことにすれば、(①)の場合は、外側のカッコは第1

カッコになりますから、中の①は、二重カッコで囲みます。

①を、1の後ろにピリオドを付けて、1. と書くことにすれば、(①)の場合は、第1カッコの中に、1. を書くことになります。

どちらでも文脈などに合わせて決めてよいのですが、ピリオド付き数字にする方がカッコ内に書く必要が生じる場合は、触って読んでシンプルになるというメリットがあります。

5. p 156 「コラム 30」

研修用のテキストの見出しの序列について伺います。

(例)

第1章 …… ■■■■■■ダイ数1ショー

1 …… ■■■■数1 ■■

1. …… ■■■■数1. ■

(1) …… ■■ (数1) ■

①……

この①をどのように書けばよいか迷っています。

「コラム 30」によれば、アルファベットや仮名に変えてよいと書かれています。ただ、この資料は研修用のテキストです。その場合、コラムのA. によれば数字の方がスムーズに進むと、C. によれば、見出しの大きさに迷うと書かれています。その場合、点訳書凡例などで、断りを入れて、アルファベット・仮名などを使って書いてもよいのでしょうか。

【A】

①まで見出しとすると、見出しの段階が5つありますので、まずは、第1章と1を9マス目からの見出しとして書くのがよいと思います。

■■■■■■■■■■ダイ数1ショー

■■■■■■■■■■数1 ■■

■■■■■■■■数1. ■

■■■■ (1) ■

■■①

①の扱いですが、小見出し符を用いるか、それでは分かりにくい場合は、1. まで9マス目からの見出しとして(1)を7マス目から、①を5マス目からにするのがよいと思います。

また、このテキストで、「1. (1)を参照」または、「(1)で述べたように」というような参照箇所が多くある場合は、最初に《原文で丸囲み数字で示してある見出しは、a. b. のようにしました》などと断って書くなどの工夫が必要になります。

上記のような参照箇所が無い場合は、(1)も数1.にして、①に(1)を用いることもできます。

そのテキストに適した工夫が必要になります。

6. p157 3. 副見出し

伊吹有喜の『犬がいた季節』の見出しの書き方についてお尋ねします。

原本の目次は次のようになっています。

第1話 めぐる潮の音 7

昭和63年度卒業生

昭和63(1988)年4月～平成元(1989)年3月

第2話 セナと走った日 101

平成3年度卒業生

平成3(1991)年4月～平成4(1992)年3月

本文中の見出しも第1話、第2話・・・第5話、最終話だけで上記と全く同じ書き方(横書き)です。

とても小さな字で書かれている「昭和63年度卒業生 昭和63(1988)・・・」の扱いですが、「てびき」p157(1)の棒線でつなぐ。見出しは一つだけなので(3)に倣って5マス見出しにしてもいいのでしょうか。それか段落挿入符を用いることは駄目でしょうか。

段落挿入符にすると目次も「第1話 めぐる潮の音」だけを書けばいいので簡潔になるのですが。適切な書き方を教えてください。

【A】

副見出しの扱いがよいのではないかと思います。棒線でつなぐと一つの見出しに4～5行要しますが、行末の数字を見ると、第1話が7ページから、第2話が101ページからで、点字1巻に見出しが一つか二つではないかと思います。〇〇年度卒業生という情報も意味があり、主見出しだけでは情報不足のような感じもします。

見出しが4～5行になっても、すべて書いた方がよいように思います。棒線でつなぐのが良いと思いますが、5マス目からの見出しにしてもよいかもしれません。

7. p158 5. 書き流しの見出し

小見出し符についてお尋ねします。今校正をしています。

5マス目見出しの中にある見出しなので、小見出し符を使っています。

重右衛門話という中にある一連の笑い話です。原本では以下のような書き方がされ

ています。

○米の飯の弁当はよく仕事をする

本当にいたんだかいけないもんだかわかんないけど・・・。

○人使いの上手なおばあさん

久兵衛のおばあさんは人使いが上手で・・・・。

1 話が点字で 1 ページくらいで、4 話あります。

このような場合、小見出し符の後改行して次行 3 マス目から話を書いた方がよいような気がするのですが、点訳者は改行せず小見出し符の後ひとマスあけて続けて書いています。このような書き方は問題ないでしょうか。校正の必要はありませんか。

【A】

全体のレイアウトはどのようになっているのでしょうか。

笑い話の一話は 5 マス目からの見出しが望ましいと思います。7 マス目からの見出しも、9 マス目からの見出しも使われていても、見出しの段階を示す数字が付いていれば行頭からのマスあけが同じにすることもできますので、できれば 5 マス目からの見出しに替えるようにアドバイスされてはどうでしょうか。

ご質問の見出しは、「てびき」p121 にあげているような書き流しの見出しのスタイルでもなく、「日時」「場所」のように小項目を小見出し扱いにする事例にも該当しないこと、この場合は、文末の小見出し符にたどり着いてからタイトルだと分かる方法よりも、書き出しが下がっていることにより読み始める時点からタイトルだとわかる方が、よいと思います。

また小見出し符を用いる場合の考え方として、小見出しの後一マスあけて本文を続ける書き方は小見出し符の及ぶ範囲がその段落のみと捉えられやすいので、一話の内部に複数の段落を伴う場合は小見出し符の後改行したほうがよいと思いますし、原本でどのようになっているのか分かりませんが、次の小見出し符付きの語や文の前は行あけした方が分かりやすいと思います。

8. p158 5. 書き流しの見出し

校正をしています。見出しの書き方について、次のような文があります。

副交感神経の働きを高めるためには、三つの条件があります。

1 行あけ

●食事は 3 時間前に済ませる

(説明文)

1 行あけ

●就寝 2 時間前に入浴して、体を温める

(説明文)

1 行あけ

●就寝前の 1 時間はスマートフォン、パソコン、テレビを見ない

(説明文)

それぞれ説明文は点字で 10 ～ 12 行程度で 7 マス見出しの中にあります。点訳本に 5 マス目からの見出しはありません。

このような場合、●は 5 マス目からの見出しにしたほうがよいのでしょうか。それとも内容的に見て（説明文も短い）小見出し符の方がよいのでしょうか。点訳者は小見出し符にしています。

また、この本の中には病気の紹介で、

●自律神経失調症

●神経性胃炎

といった短い見出し(5 個、説明文 5 ～ 6 行)があります。もし上記三つの●を 5 マス目からの見出しにしたら、この短い見出しも揃えて 5 マス目からの見出しにした方がよいということはありませんか。

見出しが長い時小見出し符にすると、最後までいかないと見出しである事がわからないので小見出し符は避けた方がよい、また小見出し符にする前に 5 マス目見出しにできないか考えた方がよいと言われたことがあります。5 マス目見出しが使える時は、内容的に小さい見出しだと思われても、5 マス目見出しにしたほうがよいのでしょうか。

【A】

「次の三つの条件があります」に続く、三つの条件の箇条書きとその説明ですので、見出しという性質のものではないと思います。条件ごとに 1 行あけがあるのでわかりにくくはありません。番号の付かない箇条書きがたくさんあって、分かりにくい場合は、点訳挿入符で《各箇条に a. b. c. の番号を付けた》のように断って●のところを a. b. c. などにする方法もあります。

病気の紹介のところも●がついているのでしたら、同じような箇条書きかも知れませんが、同様の書き方でよいと思いますが、内容が短くても見出しの場合は 5 マス目から書くこともあると思います。

なお、箇条書きの部分で小見出し符を用いても間違いではありませんし、今回ご質問の例では、箇条が少なく、箇条ごとに 1 行あいていますので、a. b. c. など は付けなくてよいと思います。

9. p158 5. 書き流しの見出し

情報紙での小見出し符についてですが、原文が次のような場合、小見出し符を用いることはできますか。(情報紙全体のレイアウト上、3マス目から書くことになります)

①宮城野区■棒線■つるがや■こども■食堂小見出し符

②柊江■地区■棒線■ぼっちゃんを■通して■地域■交流小見出し符

③数符1 ■■利用者■目線での■情報■整理小見出し符

①②のような棒線の後ろや、③のような数符の後ろに小見出し符は用いることはできるのでしょうか。

棒線や二マスあけがある文の後ろに小見出し符は使えないと思っていて、使うなら宮城野区小見出し符、柊江■地区小見出し符、数符1小見出し符となるのではないのでしょうか。

【A】

原文でどの範囲が見出しなのかによって判断することになりますが、③の数字だけに小見出し符を付けることはありません。この場合の数字は箇条書きや見出しの番号を示しているものですので、③は

数符1. ■利用者■目線での■情報■整理小見出し符

と書いてよいと思います。見出しの順番などを示す数字にはできるだけピリオドを付けるか、カッコで囲んだ方が分かりやすいと思います。(他との関係で、やむを得ず二マスあけになることもあります)

①②については、子ども食堂や地域交流の記事ではないかと思いますが、小見出し符は今の位置でよいと思いますが、棒線があると迷いやすいので、棒線ではなく二マスあけにするとか、全体のレイアウトから他の方法があれば工夫の余地はあると思います。

棒線には、いろいろな働きがあり、語句を取り出して、見出しとまでは行かないけれど、「軽く、すなわちの意味を表す」ような場合も用いられます。例えば、登場人物紹介の時、

太郎■②⑤②⑤■次郎の兄

と用いたり、地域を取り出して

仙台市■②⑤②⑤■東北楽天ゴールデンイーグルス

広島市■②⑤②⑤■広島東洋カープ

のように用いたりします。

棒線があると、ここで一区切りあるような感じがしますので、その後に小見出し符が出てくると、戸惑います。

宮城野区■棒線■鶴が谷子ども食堂

この場合は、どちらかと言えば、鶴が谷子ども食堂の説明で、宮城野区は所在地と

して書いてあると思いますので、棒線のような大きな区切りにしないで、二マスあけがよいと思います。

「工夫の余地はある」の中には、カッコを用いる方法も含まれますが、カッコで囲む場合、

鶴が谷子ども食堂（宮城野区）

のようにできれば違和感はありません。広報と言うことですので順番を入れ替えてもよいところもあると思いますが、ここでは、二マスあけでよいと思います。

10. p159 6. 出典表示

見出し、著者名の書き方について質問します。

7名の著者が、章ごとに著作しています。

点訳者は、7マス見出しで各章番号とそれに続く内容を4行程度使って書き、著者名を11マス目から3行程使って書いています。その下に5マス書き出しの見出し（1～2行）があります。

章に複数行使いますので、著者名の書き出しが二マスの違いになっています。見出しと著者名が階段状で紛らわしく感じますが、二マスなりとも著者名を下げるように校正することはできますか。

【A】

見出しが7マス目から、2行目が9マス目からになりますが、その後4行ほど本文があってから、11マス目から著者名があるのですね。

そうであれば、行頭のあけ幅で迷うということはないと思いますので、校正の指摘はしなくてもよいと思います。

それとも、7マス目からの見出しが4行にもわたるということでしょうか。各見出しが複数行になる場合でも、一般に書き出し位置（7マス目）と著者名の書き出し位置（11マス目）が4マス以上離れていれば、誤読はないと考えられますので、校正の指摘はしなくてよいのではないのでしょうか。

11. p159 6. 出典表示

私たちはグループで「コラム」を書いています。その時の出典表示の書き方について質問します。

たとえば、NHK「きょうの健康」2024年1月24日の文章から抜粋してコラムとして書いています。

どなたかの文章を抜粋してかくことに多少は疑問もありますが、この点について、抜粋は許されますか。抜粋したときの記載方法はどのようにしたらいいですか。

所々抜き出して変更は加えていません。

配布対象は地域の目の不自由な人、数人です。

出典は、「天声人語」や「編集手帳」の抜粋が多いですが、その時々で、まちまちです。

（朝日新聞「天声人語」2023年9月30日より）の、最もよい手本の書き方を教えてください。

【A】

点字は、著作権フリーですので、出典がハッキリしていればコラムに一部引用しても問題ないと思います。

新聞記事を引用する場合は、

記事名、新聞名、掲載年月日の順序になりますので、

（「天声人語」朝日新聞2023年9月30日より、一部抜粋）のように書けばよいと思います。

雑誌から引用して参考文献を書く場合は、正式には

筆者名、記事のタイトル、書名、発行年、引用ページ

のようになりますが、引用文の直後にカッコで囲んで書く場合は、雑誌名や発行年月は正確に書く必要があると思います。

「NHKきょうの料理」2024年4月号

のようになります。読む方にとっても正しい情報が伝わるようにした方がよいと思います。

その3 詩歌・戯曲などの書き方

1. p160 1. 詩 (2)

『宮沢賢治の視点と心象』という本を点訳しています。その中で、心象スケッチ「春と修羅」の詩の全文が載っています。その解説文に「宮沢賢治はこの部分を、一行ごとにほぼ一字ずつずらして、ジグザグに書いている。」とあります。

確かにこの詩は行頭を行ごとにずらして書いている部分がありますが、点訳をする際にもずらして書かなければならないのでしょうか。行頭が開いていると、触読の際に疑問に感じるのではと思い、迷っています。

【A】

「春と修羅」は、一部書き出し位置が、5～7行に渡って1文字ずつ下がり、また5～7行にわたって、1文字ずつ上がって行くような書き方になっています。点字では1行のマス数も限られているので、原文どおりに書くことはできませんし、書いても読みにくいことになります。

そこで、その部分も書き出し位置は、行頭3マス目から書いて、点訳挿入符で断ることにするのがよいと思います。

解説文に「宮沢賢治はこの部分を、一行ごとにほぼ一字づつずらして、ジグザグに書いている。」と書いてあるとのことですので、ここで、点訳挿入符で《点訳では、すべての行を3マス目から書いています》のように断ればよいと思います。

2. p160 1. 詩

児童向けの詩集です。※のついた語の下方に説明が書いてあります。

ひとつの詩の中で、ひとつのものもあれば、4個くらいのもものもあります。

また、説明が短いもの、例えば、※おかん→お母さん。もあれば、かなり長いものもあります。短いものは、その語の後に書き、長いものは、詩の最後に書く方法か、短いものも、長いものも番号を振って、詩の最後に書くのか。

どのように処理したら良いでしょうか。

【A】

詩集は詩を作品として鑑賞するものですので、詩の中にカッコで囲んで説明を入れることは避けた方がよいと思います。

詩に文中注記符を付け、一つの詩がおわるたびに、仕切りのための線を入れて、文中注記符をつけた語の説明を入れるようにするのがよいと思います。

その詩に一つだけの場合は、数字を挟まない文中注記符になります。詩が変わるたびに、文中注記符に付ける数字も、1からになります。

3. p166 2. 短歌・俳句・川柳など

挿入文の和歌に番号がついているときの点訳について教えて下さい。

原本は、

・・・3種の歌を詠みました。

(1) おほ君の～

心はわくとも～

(歌の説明あり)

(2) ひんがしの～

はこやの～

(歌の説明あり)

(3)

という文です。

他にも和歌の挿入はたくさんありますが、このみ(1)(2)(3)と上に番号がふってあります。他の和歌は普通に3マス目から上の句、5マス目から下の句にしています。この挿入文を1行あけのあと

(3マス目から)(1) ■おおきみの■～

(「おおきみの」の書き出し位置から二マス下げた位置から) ころろわ■わくとも■

～

のようにしてもよろしいでしょうか。

3首とも上の句、下の句ともに1行におさめますが、上の句がぎりぎり32マス目までできます。もし2行にまたがる場合はてびき p164、165 の歌詞の例のように番号を一マス目からにしたり、和歌の前の行に番号を持ってくるてもよいでしょうか？

【A】

(1)(2)(3)の番号を5マス目から書いて、次行に3マス目から和歌を入れる方法と、番号を3マス目からかき、次行は5マス目から書く方法のいずれかがよいと思います。

■■■■ (1)

■■オオキミノ

■■■■ココロワ■ワクトモ

■■ (1) ■オオキミノ

■■■■ココロワ■ワクトモ

タイトル中の見出しや、レイアウトによって判断してよいと思います。

4. p166 2. 短歌・俳句・川柳など

挿入されている短歌の書き方を教えて下さい。

原本で1句を以下のように4行に書き分けています。

尋ねてもまた

たづねてもたづねても

多津禰つきせぬ

剣術のみち

「てびき」p166〔処理1〕に「3行書きの短歌も原文に準じて書くことを原則とする。」とあります。上の句を3マス目と5マス目から2行に書いた場合、下の句の書き出し位置は何マス目にすればいいのでしょうか。

【A】

原本で4行に書かれていることは原本通りに書いてよいと思いますが、始まり位置が異なっても、すべて3マス目から書いた方が分かりやすいと思います。

視覚的な効果のために行頭の書き出し位置を変えたように思われます。

■■尋ねてもまた

■■たづねてもたづねても

■■多津禰つきせぬ

■■剣術のみち

5. p166 2. 短歌・俳句・川柳など

俳句の詞書きについて、短い詞書きが多く 5 マス目書き出し 1 行で収まるものがほとんどですが、長く 2 行以上になるものもあります。

長い詞書きは 7 マス書き出し、1 行で収まる場合は 5 マス書き出しと混在しても良いのでしょうか。または全て 7 マス書き出しに統一が必要でしょうか。

【A】

詞書きについては、書き出し位置を下げたり、カッコで囲んだりして書くこと以外に特に決まりはありません。詞書きであることが分かればよいと思います。5 マス目から書き、次行は二マス下げて書いてもよいと思いますので、詞書きはすべて 5 マス目から書き、次行は 7 マス目から書いてもよいと思います。

詞書きの書き出し位置が変わるより、すべて 5 マス目から書きだした方が読みやすいと思います。

または、すべて 7 マス目から書き出し、次行は二マス上げて書く方法ももちろんよいと思います。

6. p172 4. 手紙文や公用文の書き方

手紙の差出人の書き方について、「あなたの最も忠実、誠実で従順なしもべ、***より」というように、名前の前に長い修飾語がついている場合、書き出し位置と 2 行になったときの 2 行目の書き出し位置はどのようにすればいいのでしょうか。例えば、3 マス目から書き出して 1 行で終われば、3 マス目からでも構いませんか。

【A】

手紙の差出人は行末近くに書きます。墨字の手紙でも差出人の名前を行頭近くから書くことはないと思います。点字の手紙でも同じです。

行頭 10 マス以上（できれば 12 マス以上）あけて、書き始め、複数行になる場合は、1 行目より二マス下がった位置から書き始めるのが一般的です。

1 行に入っても、3 マス目から書くと言うことはありません。

7. p172 4. 手紙や公用文の書き方

高校野球の申請書のレイアウトについて伺います。

一人一人の情報の後、次のような文言があります。行末のカッコ内の数字は質問のため付けたものです。

選手は参加資格規定に相違ないことを証明します。

昭和 58 年 5 月 27 日(1)

所在地 沖縄県北中城村字屋宜原 415 番地(2)

校名 沖縄県立北城ろう学校(3)

校長 當銘正幸(4)

選手健康証明書(5)

右の者、いずれも健康診断の時点で異常のなかったことを証明します。(6)

昭和 58 年 5 月 27 日(7)

校医 井手泰之(8)

校正をしています。点訳者は(1)(5)(7)を 5 マス目から、(2)(3)(4)(6)を 3 マス目から、(8)を 19 マス目から書いています。また(4)の後は行あけしていますが、(2)の後は行あけしていません。そのような書き方でよいのでしょうか。

(3)(4)(8)は行末に書いた方がよいのではないかと思います。その場合 11 マス目以降でよいのでしょうか。また書き出しは奇数マス目の方が良いですか。(4)と(8)の書き出し位置は行末に書くにしてもマス目を変えた方がよいのでしょうか。(1)と(7)の日付は原本では書き出し位置が違いますが、どうすればよいのでしょうか。

(1)から(8)までの書き出し位置を教えてくださいませんか。

(2)と(4)の後は原本通り行あけしたほうが良いのでしょうか。

【A】

校長と校医、それぞれの証明書を一つに納めたものですので、(4)と(5)の間は 1 行あけるのが適切だと思います。

1 行目は 3 マス目から

(1) 5 マス目から

(2)(3)(4) 13 マス目から

(5) 5 マス目から

(6) 3 マス目から

(7) 5 マス目から

(8)13 マス目から

上のように入れば無理なく入るようです。

所在地は 3 行になります。2 行目 3 行目は 1 行目から二マス下げた位置から書きます。(2)と(3)の間は行あけしない方がよいと思います。

行末に揃える場合は、同じ書類の中ですので、(8)も(2)(3)(4)と揃えた方がよいと思います。書き出し位置が異なっても間違いと言うことはありませんが、揃えた方がすっきりします。日付も 5 マス目からと揃えた方がよいと思います。書き出し位

置が異なるから間違いと言うことはありませんが、書き出し位置がバラバラになるより、揃えた方がきれいな点字になると思います。

その4 表や図の書き方

1. p174 1. 表の書き方

野球の得点表の書き方についてです。宜野座高校と北城高校の試合を次のように書くことはできるでしょうか。

((宜野座を「ぎの」北城を「きた」と略記する))として1マス目から
ギノ ■■数0 ■■数0 ■■数0 ■■数2 ■■数1 ■■数1 ■■数0 ■■数0 ■■数0
キタ■■■■数0 ■■数0 ■■数0 ■■数0 ■■数0 ■■数3 ■■数0 ■■数0 ■■数0
■■■ケイ■■数4 ■■タイ■■数3

一マス目から書き、数字の間も一マスあけになりますが、1行に収まります。
この方法が適切でない場合、どのように書くのが良いのでしょうか。

【A】

分かりやすい書き方だと思います。

または、点訳挿入符で断るのでしたら、アルファベット小文字のgとkにすれば、
3マス目から書いて、ちょうど収まります。ケイの所をギノザ■■タイ■■キタシロ■■
■■数4 ■■タイ■■数3とすると、アルファベットにしても分かりやすいと思います。
どちらでもよいと思います。

2. p175 「コラム 32」

「数字の前に⑤の点が付いている便は土曜・休日」のように断って略記する方法があるとのことですが、このような方法は「サピエ」に登録する本の中でも使えますか。また、このような使い方は何処に書かれていますか。

また、一つの表を点訳して10ページになります。10ページになる表にも枠線は必要ですか。また、枠線の効果は何ページになってもあるものなのでしょうか。

【A】

点字の表は、ほとんどが原文のまま書くことができませんので、略記や省略など何らかの工夫が必要になりますし、その工夫を点訳挿入符で断ります。

そのことは、「てびき」コラム32の「1. 項目の工夫」に書いてあります。

ご質問の事例が、時刻表の数字のうち土曜・休日の便がどれかを示すために一マスしか使えない場合であれば、点訳挿入符で断ってこのように書く方法もあると思います。

ます。

ただ、一マスで表すのに⑤の点の方法しかないわけではありません。例えば、土曜日を連想できる、「二」（日曜）、「ク」（休日）を書く方法もあると思います。⑤の点だけでは見落とししやすいと判断すれば「二」の方がよいかもしれません。

一マスの余裕を活かす方法は⑤の点だけということではありませんので、それぞれの場面に適した方法を考えて、点訳するのがよいと思います。

表は長くても始めと終わりがわかるように枠線で囲みます。

たとえば、この後ろは本文はなく、表だけと分かっているれば枠線で囲まなくてもよいと思います。

3. p175 「コラム 32」

表が多い本で、1か所を除いて他は数字4桁で納まっているので、位取り点を付けずに書きました。一つの表は9個の数字のうち合計の部分1か所だけ5桁になります。そのため、その表だけはカンマを付けて書きましたが、この場合、1箇所だけなので、5桁の数もカンマ無しで書いてはいけないうのでしょうか。

【A】

合計のところは1箇所だけでしたら、そこも位取り点なしで書いてしまって、最初に表の書き方を断るところで、合計は数〇マン■数〇〇〇〇です。のようにひとこと断っておいてはいかがでしょうか。

それで他の表とも統一性がとれるのでしたら、そのような書き方もあると思います。ただ、乱用はできません。

4. p183 2. 図の書き方

『わかったさんのシュークリーム』という本です。ページの下に色々な種類のシューが10個ほどイラストで描かれています。それを書く時、点訳挿入符で《シュークリームの種類》と断わりを入れればよいのでしょうか。原本に書かれていない言葉を書く時はどうしたらよいのでしょうか。

【A】

イラストをどのように処理したかを点訳書凡例で断ります。

例えば、イラストに書かれていることをそのまま書く場合は、点訳書凡例で《（イラスト）と書いた後に原文にある説明を入れました》のように断ってあれば、その都度点訳挿入符を用いなくてよいと思います。今回ご質問の（イラスト）の場合は、シュークリームの名前が書いてあるのでしたら、書かれているシュークリーム名を並記するだけで分かると思います。

ただ、イラストを点訳者が言葉で説明するような場合は、（イラスト）と書いた後に、《イラストを言葉で説明します。》のように断り、原本に書いてある言葉と点訳者が

書いた説明の区別が付くように注意する必要があります。

5. p183 2. 図の書き方

道尾秀介著「きこえる」は、文中に記される二次元コードとURLを再生しながら読み進む小説です。二次元コード、URLの再生画の点訳の仕方をおたずねします。第1話から第4話までは、静止画に歌や会話。最終話は、会話と物語のカギになると思われる動画が写っています。どのように点訳したら良いのでしょうか。

【A】

原本では、二次元コードとURLだけが書いてあり、静止画や歌や会話というのは、二次元コードを読んだ結果表示されるようです。これを実際に画像をみて音声で聞きながらストーリーを楽しむように作られていると思います。図書館などで音源を聞けるようになっているようですが。

点字図書の読者は画像をみることができませんので、写真説明と同じように、点訳者が画像の要点を説明するのがよいと思います。特に最終話は物語のカギになると思われる動画とのことですので、具体的にわかりませんが、作品鑑賞上必要と思われる点を簡潔に説明することが必要になりそうです。あらかじめ点訳書凡例で、二次元コードの掲載箇所に書き添えられたURLを点訳することや、枠線で囲んで、表示される画像を言葉で説明することを断って点訳してはどうでしょうか。

6. p183 2. 図の書き方

「農家が教えるいもづくし 干しいも・やきいも、料理・おやつ」(農文協編)の書き方についてお尋ねいたします。

出来上がり料理の下に、(レシピ・編集部、写真・小林キユウ、スタイリング・本郷由紀子)

料理名の次(または下)に、長野●小林徹

横の料理写真の下に、(写真・野口修二、スタイリング・本郷由紀子)

同じページの「作り方」下方に、「歯触りをよくするために長いいもの毛を焼く(写真・小倉かよ)」

などと書いてあります。

点訳では「写真撮影者・スタイリング者」は全てカットしてよろしいのでしょうか。料理の「レシピ者名」だけを料理名の次行末に書くだけで他は省略してよいのか、またはカッコ書きがある料理には情報全てを書くのか、どちらがよいのでしょうか。

【A】

写真の撮影者名・スタイリング者名などは省略します。

点訳書には写真そのものは掲載されないのですから、撮影した人の名前も要らないことになります。

7. p183 2. 図の書き方

原本に折れ線グラフ、棒グラフがあります。点訳者はグラフの数値を読み取りの概数として、表にしています。

平均降水量では mm の最終桁を 5 刻みに、10 あるいは 5 にまとめています。

平均気温、最低気温では最終桁を、1 度あるいは 0.5 度に丸めています。

グラフに定規をあてて、概数を割り出すと、端数が最終桁で出ていると思いますが、5 刻みでまとめているわけです。

概数をさらに概数化しているので、正確な数値から離れるように思いますが、最終桁にそのまま端数を書くように校正することはできますか。

【A】

原文がどこまで正確な数値を必要としているかによると思います。折れ線グラフや棒グラフから概数を読み取る場合、点訳挿入符で《グラフから概数を読み取った》ことを断ります。

ですから、原文の内容によって、およその傾向が分かればよいのか、もっと細かい数値で比較することが必要なのかを判断し、より正確な数値がなければ原文を読み進むのに影響がある場合は、校正で指摘することになります。

8. p186 「コラム 33」

現在「おいしくたべる こどものための実用シリーズ」を点訳・校正しています。子どもが楽しく読む本なので、一般書と書き方がちょっと異なり、絵や説明が多くてできます。お料理が出来た時に、会話ではないのですが、吹き出しの中に このお料理はとてもおいしいよ みたいな文が書かれています。吹き出し箇所は多くてできます。吹き出し部分をどのように点訳したらよいでしょうか。

【A】

参考書や実用書などで、ヒントになることや感想などが書かれていることがありますが、第 1 カギで囲んで書いてよいと思います。

原本によっては、キャラクター的な名前が付いていたりします。そのような場合は、キャラクター名を書いて、二マスあけて、第 1 カギで囲んで書いてよいと思います。この種の本の場合は、会話文などはあまりありませんので、第 1 カギで囲んでも誤解はないと思います。

9. p187 3. 区切り線・枠線

枠線の使用について質問します。

2 つのストーリーを収録した小説（各ストーリーは章として構成）で、その 1 つの中で 2 カ所、手紙文が太字・枠線囲みで書かれています。

2カ所とも独立した小見出し（番号のみの小見出し）となっており、原本でも12ページと8ページと比較的長いので、点訳書では枠線囲みは省略したのですが、原本通り枠線で囲んだ方が良いでしょうか。

【A】

原文で枠線で囲んであっても、点訳では枠線に囲まない場合も多くあります。ご質問の場合は、枠線で囲まれた部分が非常に長く、またその部分に小見出しがついているのですから、枠線は必要ないと思います。枠線で囲む効果がないと思います。

10. p187 3. 区切り線・枠線

健康に関する how to 本です。

見出しは、大見出し（章）と章の中に小見出しがある2段階です。大見出し、小見出しの前ですべて頁替えしています。

それぞれの章の最後に、その章の内容に関連する1頁程度のこぼれ話が「トピック」という見出しで頁替えをして書かれています。このトピックは、横書きになっていて飾り罫がついており、他の文章とレイアウトが異なっています。

大見出しを7マス目、小見出しを5マス目からにするのですが、このトピックも小見出しと同列の5マス目からの見出しにして書いてよいのでしょうか。

それとも、本文とレイアウトが違うので、「てびき」p187にあるように囲み記事の挿入と考えて、枠線を用いるほうがよいのでしょうか。

また、枠線を用いる場合は、原本が頁替えになっていても、枠線があることで、本文との違いは明らかなので、前の文から行あけせずに書くことになりますか。

【A】

いろいろな書き方があると思います。

トピックが大見出しの最後に必ず付いていて、それが、目次にも載っていないような場合、点訳でも目次に載せないで、本文が終わった後枠線を用いて書くことにすると、枠線内の見出しは7マス目からになります。

トピックも本文と同じように書き、目次に採用する場合は、前の項目の本文が終わった後、1行あけて、5マス目からの見出しとして、トピックを書くこともできます。

枠線の前後の行は、行あけしなくて差し支えありません。

11. p189 「コラム 34」

仕切り線の使い方について質問します。同じ本の中に「写真」「注記」が混在している本の場合、注記と写真のそれぞれに仕切り線を使ってもいいのでしょうか。

各見出しの最後の仕切り線の数に1つだけだとすると、例えば注記の後に、写真を入れるときに1行あけをすると「写真」が本文の見出しと間違えてしまうのではな

いでしょうか。「注記」「写真」が2つあれば、2つの仕切り線を使っていいのでしょうか。

当センターでは凡例で写真は各見出しの最後に、キャプションの付いているものだけを書きました。また、掲載順に番号を付けました。注記は文中注記符の説明は各見出しの最後にまとめて点訳しました。とことわり、「てびき」p186の「コラム 33」を参考を書いて、各見出しの終わりに仕切りの線を引いています。

【A】

仕切りのための線は、「コラム 34」にありますように②の点と②⑤の点を用いることができます。どう用いてもよいのですが、たとえば、本文が終わったら、②⑤の点の仕切りのための線を書き、注記を書いて、注記が終われば②の点の線を書いて写真の説明を書くこともできます。順序が逆でも自由です。

こうすると、どちらかが無い場合は、線が一つになるだけですので、気にせずに書くことができます。

例えば、②⑤の点の下には必ず注記を書き、②の点の下にはかならず写真の説明を書くとしてもよいと思います。そうすると、注記が無い場合は、②の点で写真だけを入れ、写真が無い場合は、②⑤の点で注記だけを書くこともできます。

仕切りのための線は、1行あけより小さい区切りであるという以外、厳密な規則はありませんので、ある程度自由に工夫することができます。

その5 ルビやマークなどの書き方

1. p 191 1. ルビの付いた言葉の書き方 (2) (3)

ルビ処理についてのQ&Aで

⑤「グランプリ」に「grandprix」のルビ→⑤グランプリ (grandprix) : (3)より

⑥「grandprix」に「グランプリ」のルビ→⑥グランプリ (grandprix) : (2)より

となっていますが、⑥についても(3)とは考えられないのでしょうか。

「grandprix」は「グランプリ」と読むという説明だと思います。ルビをつけた後にルビなしで「grandprix」が出てきたときに処理によって「グランプリ」としてあるとかなり違和感があるのですが。

【A】

一般にルビの果たす第一義的な役割は、むずかしい漢字やどう読むのか迷う漢字などの読み方を示し文を読みやすくすることであり、外国語に付けられたルビも同様に、スムーズに読めるように配慮する意図によるものである場合が多いと思います。ですから読み方を示すルビが付されたメリットを生かしてルビを先に書くことで、読者は文を読み取りやすくなります。

とくに点字では語のかたまりをあらかじめ把握できずジー・アール・エイ〜のように経時的に読んでいった結果グランプリという単語だと理解しますが、あらかじめグランプリの読みを知ってから読めば、大変読みやすくなります。

漢字に付されたルビも2回目以降ルビなしで出てきたときは、ルビの読みを書くか元の漢字の読みを書くか適宜選択するわけですので、外国語のルビの場合も、ルビなしのときに読みを示す仮名の方を書くことに違和感があれば、アルファベット綴りの方を書いてよいと思います。

2. p193 2. マーク類の書き方

縦書きの原文で、ひらがなの「く」の字を長くしたような繰り返しの記号が用いられています。

五更の天も明石潟。（「く」を長くした記号）。

芥川にそ着きにけり（「く」を長くした記号）。

「天下人の茶」第一部初めに出てくる、この部分の書き方を教えてください。

【A】

能楽の「豊公謡曲 明智討」という一部、謡の部分で、繰り返しを表す記号のようです。

「く」を長くした記号の部分に点訳挿入符で《繰り返し記号》のように書く方法もありますが、長い部分ではありませんので、この場合は、繰り返して書いた方がよいと思います。

数5コーノ■テンモ■アカシガタ。■■数5コーノ■テンモ■アカシガタ。

アクタガワニゾ■ツキニケリ。■■アクタガワニゾ■ツキニケリ。

3. p193 2. マーク類の書き方

現在点訳している本（『崖っぷちの老舗バレエ団に密着取材したらヤバかった』）はYouTubeで公開している動画の内容をもとに、動画撮影者が語ったノンフィクションです。

エピソードのいくつかに、「密着動画」として、関連するQRコードが付されています。

QRコードを読み取るとYouTubeの動画が見られるのですが、原本に記されていないYouTubeのURLを点訳書に入れてもよいでしょうか。それともQRコードが付されていることだけを断ったほうがよいのでしょうか。

【A】

一般には、QRコードがあることを示すだけになりますが、特に必要と感じた場合は、《原本にはないが、URLを記した》ことを点訳書凡例で断って記すことも可能です。必要な情報であれば親切だと思います。

4. p194 2. マーク類の書き方 【処理2】

ネットへの投稿をまとめたと思われる書籍の点訳です。様々な顔文字が頻出していますが、すべて省略して句点や読点に置き換える処置をして良いのでしょうか？

笑い顔一つにも様々な種類があるようで、ニュアンスを伝えるのは非常に難しいのですが、ただ（エガオ）や（ガッカリ）などとするのも違う気がします。

あるいは凡例などで、「顔文字頻出ですが、句点、読点に置き換えました」などと断る必要があるのでしょうか。

【A】

原本の雰囲気がわかりませんが、点訳書凡例で「顔文字が頻出しますが、すべて句点、読点に置き換えました」と断るのも一つの方法だと思います。

笑顔にもいろいろな顔文字が用いられているようですが、それを笑顔はすべて（エガオ）として統一して書くのも一つの方法だと思います。点訳書凡例で「原本には多種多様な顔文字が頻出するが、（エガオ）（ガッカリ）（イカリ）（ナキガオ）の4語に統一して書きました」などと断ってもよいと思います。

わかりやすく、伝えやすい方法を選択して点訳すればよいと思います。

5. p195 2. マーク類の書き方 【処理3】

句読符の代わりについているオンプマークはかっこに入れて（オンプ■マーク）としますが、かっこの前は一マスあけるのでしょうか。続けるのでしょうか。他のマーク類も同様でしょうか。（笑）は前をあけるので同じでしょうか。

【A】

句読符の代わりに音符マークが用いられている場合、「てびき」p195【処理3】にあるように、適切な句読符に代えて書きます。ですから文の終わりでしたら、句点を書きます。かならず（オンプ■マーク）と書かなければならないわけではありません。そのように説明してもよい、ということです。書く場合は、カッコの前を一マスあけます。

6. p195 3. 数の略記

米作家の小説の訳書で、米陸軍の上官が部下に伝える時刻を「0 7 0 0時」と和訳しています。

ネット上には米軍は4桁の時刻を2桁ずつ区切って読むとの説明があり、「数0 7 ■数0 0時」とするか、このQ&A「数を含む言葉の書き方」を参考に、「マル■ナナ■マル■マルジ」とするかで悩んでいます。後者は日本軍の時刻の音声表現のよう

ですが、他国の軍に流用しても差し支えないでしょうか。

【A】

ミリタリータイムという時刻表示の仕方のようです。書いてあるとおり、数 0 7 0 0 ジと書き、その後に説明があればこのままでよいと思いますが、説明がなく、読んでいて分からない場合は、初出の時に、点訳挿入符で数 0 7 0 0 ジ点挿午前 7 時 0 分点挿と補えばよいと思います。声に出して読む場合は、ゼロ■セブン■ハンドレッドと読むようですので、日本軍の読み方はあてはまりません。

その 6 本文以外の割り付け

1. p197 1. 巻数のまとめ方

巻数の表し方の質問です。本文のみの巻数が 3 巻になり、索引が多いため、1 巻分として作成したのですが、その場合全体の巻数は 4 巻とするのでしょうか。あるいは本文 3 巻、索引巻は別の巻として表現するのでしょうか。

【A】

全 4 巻とします。

最終巻が索引の場合は、点訳書凡例で、「最終巻は索引です」というように断ります。

標題紙も、ダイ数 4 カン、(ゼン■数 4 カン) としますが、書名などを入れる枠内に 1 行足して(サクイン) のように入れてもよいと思います。

2. p197 2. ページの付け方

前書きは小説のテーマとは基本的に関連がない内容で、ページ付けは下がり数字をつけますが、現在点訳をしている本は、前書きとして書かれている内容は本文の要約、紹介が書かれています。この場合のページ付けはやはり下がり数字でしょうか

【A】

本文の要約、紹介であれば、ページ付けは下がり数字がよいと思います。

前書きからすでに物語の内容が始まっている場合には、数字の 1 になります。

3. p198 3. 標題紙

標題紙についてです。本のタイトルが 6 マスしかないのに、点訳者は左右 7 マスずつ開けて枠で囲んでいます。「サピエ製作基準」p 6 には枠内の文字や記号との間を二マス以上あけるとなっていますが、何マスまでという制限はありますか。

【A】

このことに関するルールはありませんので、施設・団体で話し合っ決めておく
よいと思います。

たとえば、タイトルが全体で6マス以下であれば、前後4マスあけにするなど
決めておけば、点訳者も校正者も迷うことはないと思います。

4. p198 3. 標題紙

標題紙についての質問です。

『お山の上のレストラン ―― 七歳児参りのふっくらムニエル』

『お山の上のレストラン2 青葉の頃ハーブポークの休息』を点訳中です。

サピエ図書館で検索すると七歳児参りの方は、副書名扱いで、青葉の頃の方は、各
巻書名扱いです。どちらも、以前出版された本（それぞれ別の書名）を改題して発
行されています。登場人物や舞台背景なども同じで、シリーズのようですが、七歳
児参りの方は「1」とはなっていません。

それぞれ別の書籍と考え、副書名・各巻書名で標題紙を点訳してもよいでしょうか。

【A】

このようなシリーズは、わりあい多いと思います。

「1」と書いていないので、1と入れることはできないと思います。

各巻書名も副書名のような形で書く事ができると思いますので、標題紙は、上の行
に

お山の上のレストラン

お山の上のレストラン■■■2

と入れ、次の行に、②⑤②⑤の線で囲んで

――■七歳児参りのふっくらムニエル■――

――■青葉の頃ハーブポークの休息■――

と入れては、いかがでしょうか。

5. p198 3. 標題紙

『貴婦人Aの蘇生』の新装版を点訳していますが、この「新装版」の処理について
おたずねします。

表紙、奥付のどちらにも「新装版」とあるので、標題紙、奥付に含めると
思いますが、「貴婦人Aの蘇生」のあと、二マスあけて「新装版」と入れてよい
のでしょうか。なお、サピエ図書館で調べてみると、タイトルが「貴婦人Aの蘇生」、
シリーズ名が「朝日文庫 お52-3」となっており、原本注記として「新装版」と
載っています。

また、中扉裏、目次の前に、「本書は2005年12月、……の新装版です。」の1文が
ありますが、これはどこに、どのような形で入れるのがよいのでしょうか。

【A】

「新装版」は、本や書籍が新しい装丁で再発行されることを意味していて、内容の更新や改訂は、必ず実施されるわけではなく、基本的に見た目のリフレッシュとなります。今回も表紙のデザインが 2005 年の文庫本と異なっています。

物語そのものは手を加えられていないので、一般に「新装版」は原本に対する注記と言うことになります。その意味で「サピエ」では、原本注記に書かれています。この本はすでにサピエに点字データが登録されているのですが、2002 年発行になっていますので、おそらくハードカバーの点訳ではないかと思います。今回は文庫本ですので重複にはあたらないと思われます。

また、今回は「新装版に寄せて、著者の長年の愛読者である中嶋朋子氏が巻末エッセイを寄稿。」とあり、新たに加わっている部分もありますので、点訳してサピエにアップするのに不都合はありません。

書誌にシリーズ名があっても「朝日文庫」「岩波文庫」などというシリーズ名は一般に点訳しません。

「新装版」も原本に関することとして点訳を省略してもよいと思いますが、今回は上記のように、内容が加わっているので、書名の後に二マスあけて、新装版といれるか、レイアウト上収まりが悪い場合は、「てびき」p 199 の第○版のように、行を替えて入れてもよいと思います。

「本書は 2005 年 12 月、……の新装版です。」は入れなくてもよいと思いますが、入れるとしたら、あとがきなどのあとに、余裕があれば 1 行あけて、入れてもよいと思います。

6. p198 3. 標題紙

地域の歴史・風土記を点訳しました。

巻にまとめ、巻ごとに古代、中世、現代、などの原本大見出しより、巻名を付けたいと思います。書名、副書名ではないので、扉の枠線の外に第 1 巻、(全 6 巻)と同じ扱いでカッコに入れて扉に書いてはどうかと思っています。どのように書いたらよいでしょうか。

【A】

1 冊の原本を、点字の巻ごとに古代、中世、現代のように巻名を付けるということでしょうか。サピエに登録するのではなく、さらに ISBN が付いていないような地域の資料でしたら、分かりやすく工夫をして標題紙を作成してよいと思います。

以下は、1 例です。

枠の外に書く場合は、枠の直ぐ下の行に、第○巻、その下の行に(全○巻)がきます。「てびき」の例 2 の場合は、その下に著者表示が来ます。

これらの下 1 行あけて入れることはできると思います。

中央付近に入れると、第1カッコでは全体で6マスから8マスになり、見落とす恐れがあると思いますので、前後を棒線で囲むのがよいかもしれません。

なお、サピエに登録するのでしたら、点訳書凡例に、「標題紙に、古代、中世、現代の区分を入れました」のように断ったほうがよいと思います。

7. p200 4. 目次

本文中の長い見出しと目次の関係について教えてください。

(株)宝島社「子どもの頭と心を育てる 100 のおはなし」で、本文には見出しとして、日本の名作、新美南吉①、太字でてぶくろを買いに②、人間に化けて、はじめてのおつかい③

とあり、目次には②だけ載っています。

これまでは本文見出しを目次に上げていたのですが、子供向けの場合簡素な目次(②だけ載せる)もよいのかなと思ったりするのですが、そのような変則的なことはしないのでしょうか。

【A】

点訳書の目次は、点訳書の本文の見出しを目次の項目にします。

ですから、ご質問の本の場合、

本文の見出しを、例えば

7マス目から てぶくろを買いに

として、

次行行末にあわせて 新美南吉

3行目に3マス目から 日本の名作

4行目に3マス目から 人間に化けて、はじめてのおつかい

と書き、次行1行あけて、本文を書く

または、

次行行末にあわせて 新美南吉

3行目に段落挿入符を用いて、日本の名作■人間に化けて、はじめてのおつかい
段落挿入符閉じ

で、次行から本文を書くなど工夫をして書くと、本文の見出しと目次の見出しを統一することができると思います。

8. p200 4. 目次

今点訳している児童書ですが、原本目次には「あとがき」とありますが、本文には「あとがき」の項目は無く、「悩み多き魔女？」という見出しになっています。

点訳本の目次としては、「悩み多き魔女？」だけでよいのか、その前に「あとがき」

を入れるのでしょうか？

【A】

「悩み多き魔女？」の内容が「あとがき」でしたら、点訳書の見出しも

あとがき ■ー■ 悩み多き魔女？

と入れ、点訳書の本文の見出しと目次を統一するのもよいと思います。

点訳書の本文の見出しを「悩み多き魔女？」だけにするのでしたら、目次も「悩み多き魔女？」だけになります。

9. p 206 7. 欄外見出し

歌詞の点訳ですが、1 曲ごとに用紙替え、点訳ページ行左端に原本ページを書きます。原本ページは利用者の方からの依頼です。わかりやすいように訳して欲しいとの希望です。

2 行目 7 マス目から曲名を書き、3・4 行目に作詞者と作曲者、次行 5 マス目から番号付き歌詞、あるいは 3 マス目から歌詞を書いています。楽譜は省きます。

ただ原本の歌詞が途中から前ページにあったり、2 ページほど飛んで書かれていたり、と入り組んでいます。その状態がかなりの箇所で行き違い、使用者が曲名の原本ページを探すのに混乱します。どういった処理がいいのでしょうか。

【A】

原本のページは奇数ページに付けますので、歌詞の繰り返しや前に戻る場合、その都度書くとなれない方は読みにくいかもしれません。

歌詞はほぼ 2 ページに収まると思いますので、もっとも単純な方法としては、新たな曲はかならず奇数ページから書くこととし、そのタイトルが載っている原本ページを点字のページ行に書くようにするのがいいのではないのでしょうか。

10. p207 8. 索引

今点訳している本の巻末に索引があります。その索引の項目の中にさらに項目があります。このような場合、どのようなレイアウトにしたらよいのでしょうか？

知能 5, 11, 15

知能指数 24, 27

統一知能テスト 63

優生学と知能 69

中国

中国の男女比 26

道徳

遺伝子操作と道徳 12

幹細胞研究と道徳 109、135

クローン技術と道徳 8-9

項目があり、次行に1字下げて項目があります。

【A】

大きい項目を見出しのように考えて

5マス目から チノー■・・・■数5、■数11、■数15

3マス目から チノー■シスー■・・・■数24、■数27

のように書いてはどうでしょうか。

5マス目からの項目でも、前の行をあけなくてもよいと思います。

5マス目から書き始めの行が2行になる場合は、2行目は7マス目から、3マス目から書き始める行が2行になる場合は2行目は一マス目から書いて良いと思います。また、点訳の際には、原本ページではなく、点訳書の巻数とページ数を入れることになりますので、2行になるケースは多くなります。

11. p207 8. 索引

俳句集の点訳を行っていますが、索引について省略が可能かどうか教えてください。1～9巻までが本文で、10巻以降が索引となります。ざっと見積もると索引だけで10巻以上になるかもしれません。

古い本で索引の頁や読みの間違いではと思われる箇所もあり、出版社へ問い合わせましたら、製作した関連会社は解散してしまい返答ができないとのことでした。

点訳する場合は、頁数や読みの誤植を修正しても良いでしょうか。または索引そのものを省略して良いものでしょうか。

【A】

原本の誤りについては、《出版社に問い合わせたが不明であったため、必要と思われる箇所は修正して点訳した》と点訳書凡例で断った上で、修正して点訳してよいと思います。

索引の省略については、点訳される施設・団体の判断になると思いますが、原本で9巻の本文でしたら、何らかの索引は必要ではないかと思います。おそらく索引も、俳句全文の索引、作者別索引、書き出し部分の索引などいくつかあるのではないかと思います。全体の構成や目次との関係で、1種類の索引だけを点訳することも考えられると思います。

なお、索引を省略した場合も点訳書凡例で断ります。